

- このスライドは、非営利かつ個人的な目的に限り閲覧することができます。

The following presentation slides are shared with symposium registrants exclusively for personal, non-commercial, educational purposes.

- このスライドの著作権は、講演の発表者本人に帰属します(図表等の引用箇所は除く)。如何なる国・地域においても、また紙媒体やインターネット・電子データなど形態に関わらず、スライドの全部または一部を無断で複製、転載、配布、送信、放送、貸与、翻訳、販売、変造、二次的著作物を作成すること等は、固く禁止します。

Copyright of these slides belongs to the presenter and/or the Radiation Medical Science Center for the Fukushima Health Management Survey, Fukushima Medical University (except figures, tables, etc., cited from other sources). Authorized recipients should refrain from reproducing, reprinting, distributing, transmitting, broadcasting, loaning, translating, selling, modifying, or creating derivatives of any slides, in any physical or electronic medium anywhere in the world.

2023年 福島県立医科大学『県民健康調査』国際シンポジウム
公立大学法人福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター
国際シンポジウム事務局(広報・国際連携室)

✉ kenkani@fmu.ac.jp Tel: 024-581-5454(平日9～17時)

2023 Fukushima Medical University International Symposium on the Fukushima Health Management Survey

Secretariat of International Symposium

Office of Public Communications and International Cooperation, Radiation Medical Science Center for the Fukushima Health Management Survey, Fukushima Medical University

✉ kenkani@fmu.ac.jp, TEL: +81-24-581-5454 (Weekday, 9a.m. - 5 p.m. JST)

福島災害後の被災者に対するリモート・サポートについて

ここから調査に基づく電話介入

福島県立医科大学
前田正治、三浦 至

ここから調査(こころの健康度・生活習慣に関する調査)の目的

➤被災県民のメンタルヘルスと生活習慣問題を長期的に把握する

➤把握した健康情報をもとに、一人ひとりに寄り添った保健・医療・福祉に係る適切な支援を提供する



心身の健康にリスクを抱えていると考えられる住民への電話支援の実施

調査対象

- 避難地域に指定された13市町村(下記)の住民約210,000人の方々を対象
- 年齢に応じて**5グループ**にわけて調査実施.
 - ①**0-3歳** : 4,625名
 - ②**4-6歳** : 5,047名
 - ③**小学生(7-12歳)** : 11,413名
 - ④**中学生(13-15歳)** : 6,023 名
 - ⑤**一般成人 (16歳以上)** : 184,507 名

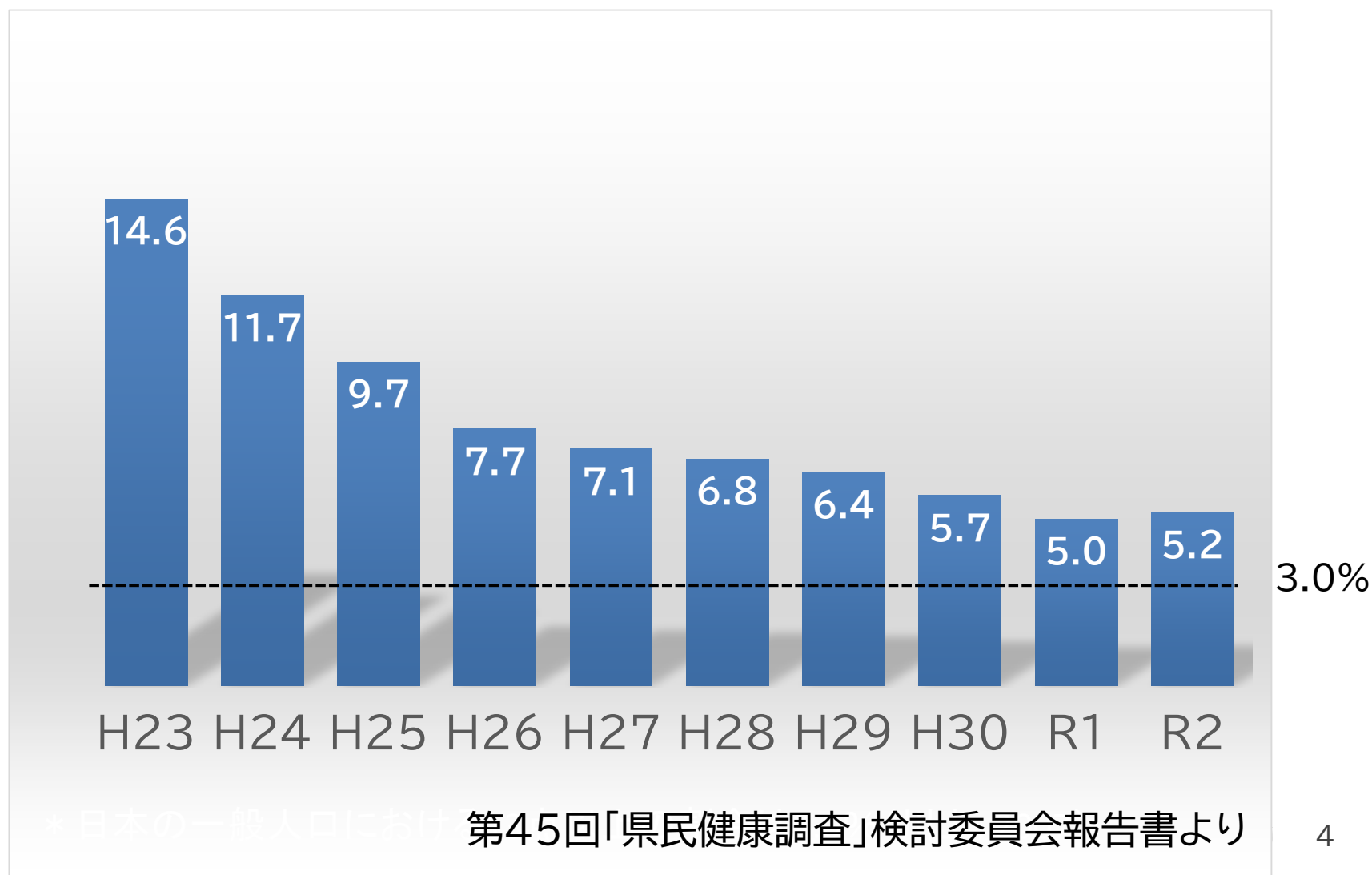


本調査は2012年1月から毎年行われている

※人数は2013年調査のもの

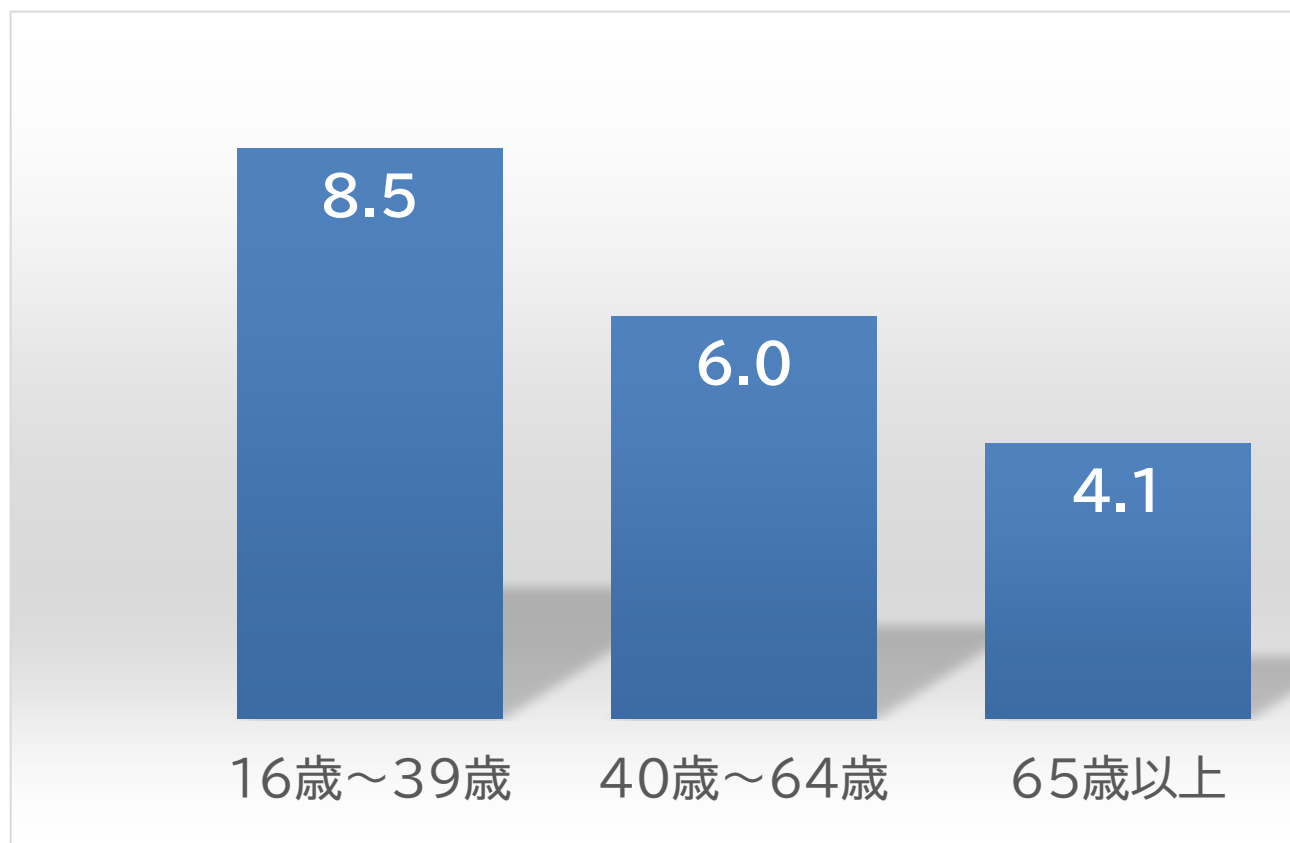
成人の全般的精神健康(K6)ハイリスク率の推移

*日本の一般人口におけるハイリスク率は3.0%(川上, 2007)

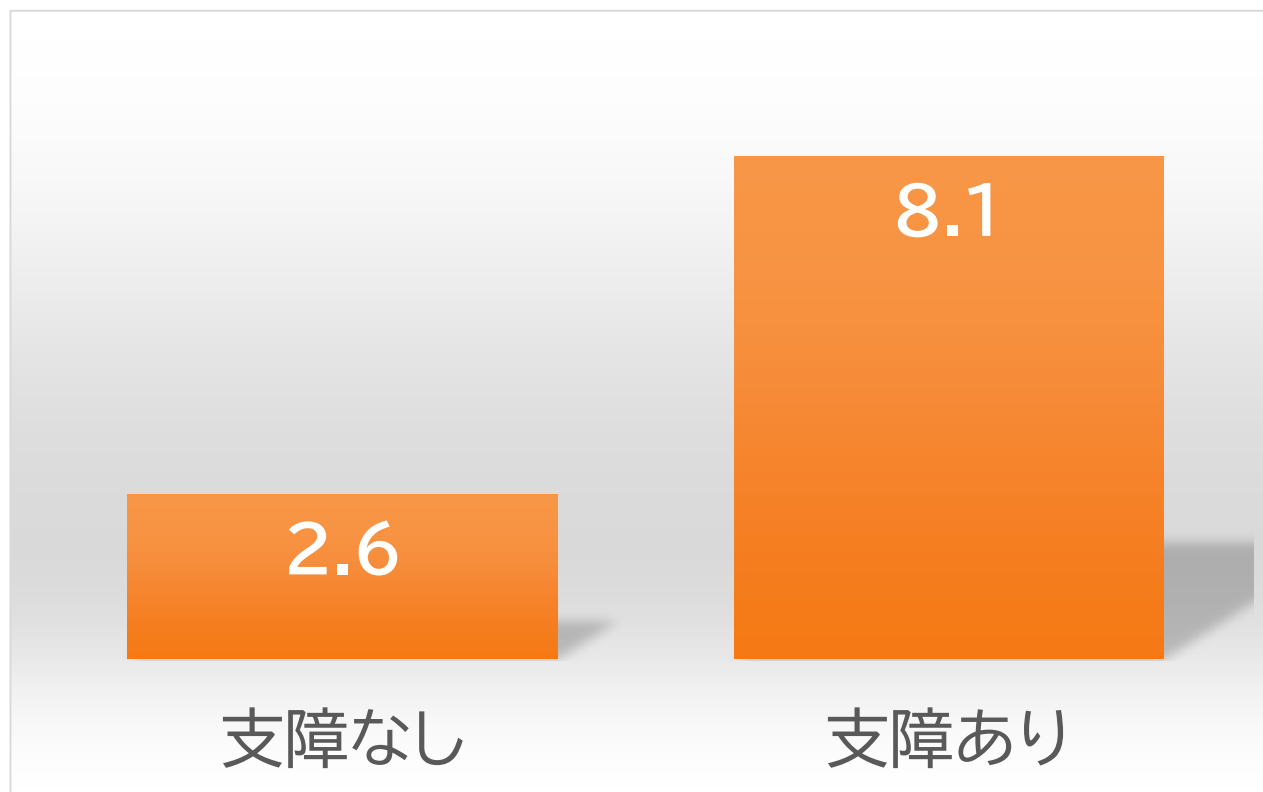
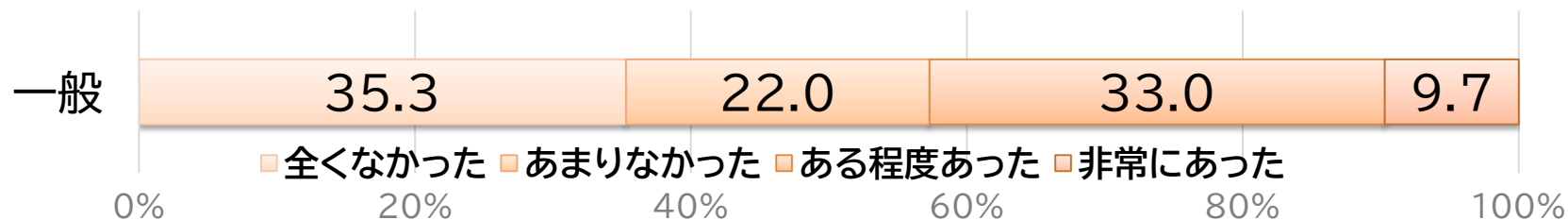


令和2年度 全般的精神健康度(K6) ハイリスク率 年代別比較

*日本の一般人口におけるハイリスク率は3.0%(川上, 2007)



コロナ禍の生活への支障と全般的な精神健康度

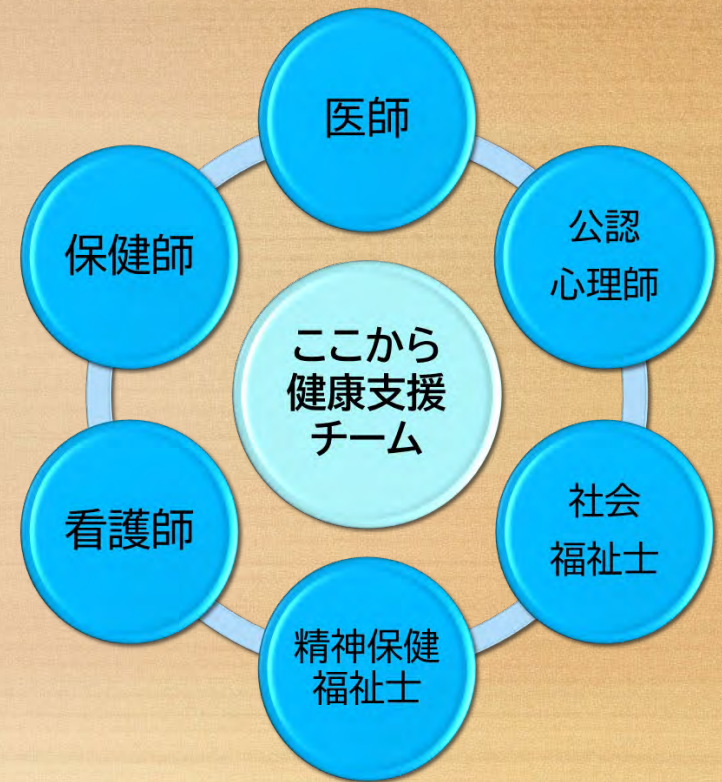


第45回「県民健康
調査」検討委員会
報告書より

電話支援概要

- 調査結果に基づき、支援対象者を選定し、該当する対象者に対して架電による電話支援を実施
- 電話支援では傾聴を重視し、状況に応じて2次スクリーニング、危機介入、助言、心理教育、受診勧奨等を行う
- これまでに約37,000人を支援
- 受電支援は、支援を求める全対象者が利用でき、ハイリスク住民に限らない。

支援チーム(約20名)



電話支援チーム



支援対象者の選定基準*

【子ども】

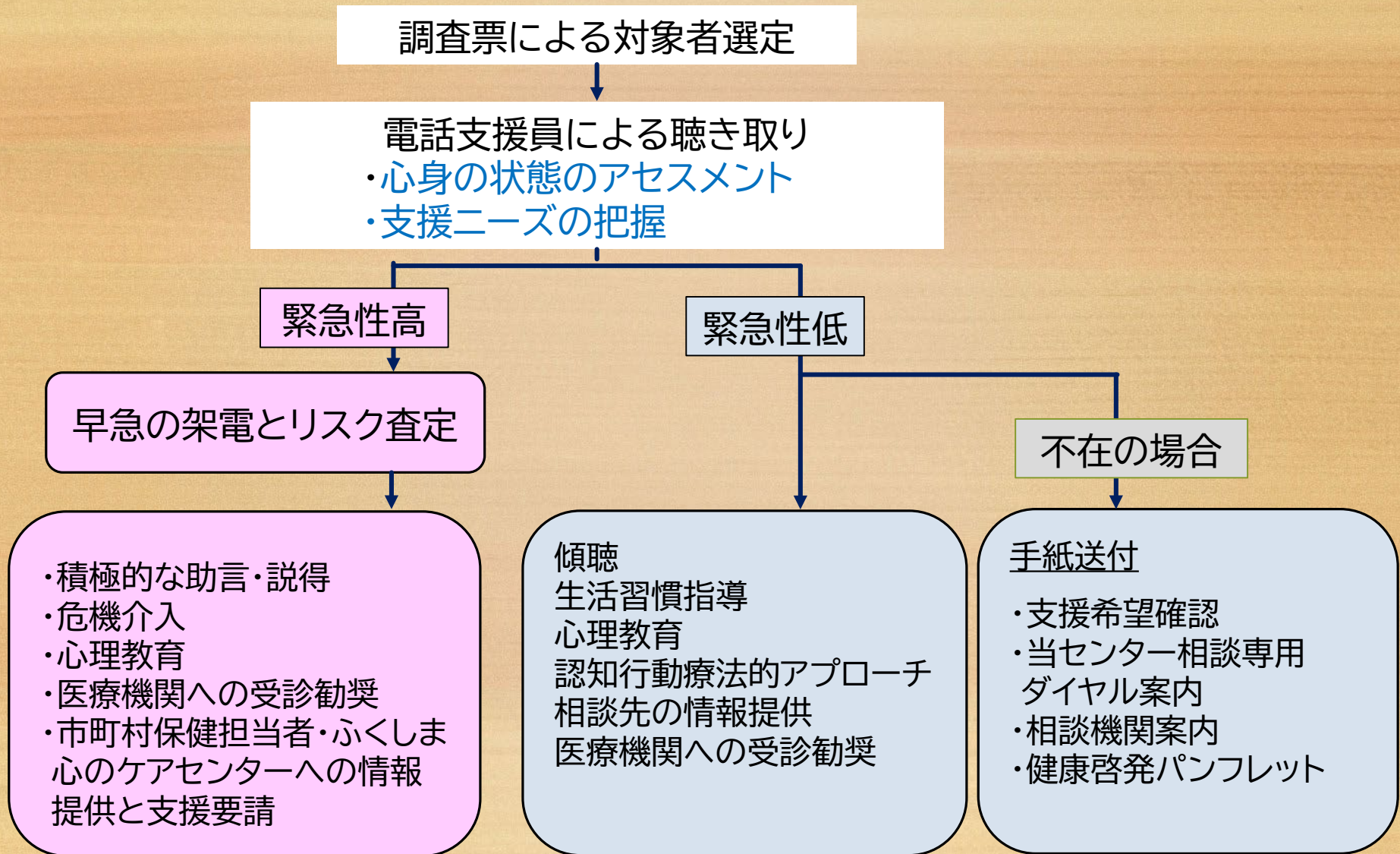
- 情緒と行動(SDQ)
- 発達の問題
- 相談先の有無
- 通園・通学状況
- その他困ったこと

【成人(16歳以上)】

- 全般的精神健康度(K6)
- トラウマ反応(PCL)
- BMI
- 既往歴、現在の通院状況
(身体的・精神的問題)
- 睡眠
- 喫煙
- 飲酒(CAGE)
- その他困ったこと

*選定基準は年度によって変更

電話支援の介入フロー



電話支援実施者数と回答者に対する割合

子ども

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
電話支援 実施者数 (人)	1,180	623	473	327	250	181	162	138	112	95
回答者に 対する割合	6.3%	5.6%	5.0%	4.8%	3.9%	3.7%	3.7%	4.1%	3.6%	3.4%

成人

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
電話支援 実施者数 (人)	7,642	5,991	3,913	3,053	2,567	2,382	2,202	2,206	1,875	1,968
回答者に 対する割合	10.4%	10.9%	8.4%	7.0%	5.8%	6.3%	6.0%	6.1%	5.4%	5.5%

電話支援対象者の相談内容(子ども)

平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
電話支援 実施者数 623人	電話支援 実施者数 473人	電話支援 実施者数 327人	電話支援 実施者数 250人	電話支援 実施者数 181人	電話支援 実施者数 162人	電話支援 実施者数 138人	電話支援 実施者数 112人	電話支援 実施者数 95人
被災による不安、 放射線・被ばく 等の不安 147人 (23.6%)	学校に 関すること 70人 (14.8%)	学校に 関すること 49人 (15.0%)	学校に 関すること 54人 (21.6%)	学校に 関すること 23人 (12.7%)	学校に 関すること 29人 (17.9%)	学校に 関すること 35人 (25.4%)	学校に 関すること 29人 (25.9%)	学校に 関すること 25人 (26.3%)
学校に 関すること 136人 (21.8%)	怒り・ イライラ・暴力 52人 (11.0%)	身体面の 健康 29人 (8.9%)	身体面の 健康 15人 (6.0%)	怒り・ イライラ・暴力 10人 (5.5%)	身体面の 健康 13人 (8.0%)	身体面の 健康 15人 (10.9%)	怒り・ イライラ・暴力 14人 (12.5%)	日常生活や 習慣 18人 (18.9%)
身体面の 健康 102人 (16.4%)	身体面の 健康 32人 (6.8%)	怒り・ イライラ・暴力 27人 (8.3%)	睡眠 9人 (3.6%)	身体面の 健康 9人 (5.0%)	怒り・ イライラ・暴力 11人 (6.8%)	食習慣 12人 (8.7%)	身体面の 健康 9人 (8.0%)	怒り・ イライラ・暴力 12人 (12.6%)
怒り・ イライラ・暴力 90人 (14.4%)	被災による不安、 放射線・被ばく 等の不安 25人 (5.3%)	被災による不安、 放射線・被ばく 等の不安 19人 (5.8%)	怒り・ イライラ・暴力 8人 (3.2%)	睡眠 4人 (2.2%)	睡眠 9人 (5.6%)	睡眠 11人 (8.0%)	睡眠 9人 (8.0%)	睡眠 9人 (9.5%)
抑うつ 83人 (13.3%)	抑うつ 23人 (4.9%)	睡眠 11人 (3.4%)	食習慣 4人 (1.6%)	食習慣 4人 (2.2%)	食習慣 6人 (3.7%)	怒り・ イライラ・暴力 10人 (7.2%)	食習慣 7人 (6.3%)	身体面の健康 6人 (6.3%) 食習慣 6人 (6.3%)

平成24・25年度の相談内容詳細(子ども)

	0～6歳	小学生	中学生
被災による不安、 放射線・被ばく等 の不安	地震を怖がる	「放射能ついてない？」と聞く	「私は、子どもを産めるの？」と聞く
	大きな音に過敏に反応する	避難訓練でパニックになる	常にマスクをつけている
	「食べていい？」 「触っていい？」と聞く	海や水を怖がる	震災の話題を避ける
学校に 関すること	登園しぶり	登校しぶり・不登校	登校しぶり・不登校
	園になじめない	孤立・いじめ	孤立・いじめ
		忘れ物が多くなった	進学への不安
身体面の健康	頭痛・腹痛・嘔気	下痢・過敏性腸症候群	生理不順・胃腸炎
	喘息・蕁麻疹・過呼吸	過食・食欲低下	過食・食欲低下
	夜泣き・夜尿症・寝付けない	寝付けない・中途覚醒	夜遅くまでゲーム 睡眠不足
怒り・イライラ・ 暴力	きょうだいに手をだす	反抗的・怒りっぽい	反抗的・怒りっぽい
	乱暴になった		
	癇癢を起す		
抑うつ	赤ちゃん返り 母がいないと不安がる	笑わなくなった	泣くことが多くなった
	暗い所を怖がる 一人で寝れない	外に出なくなった	外に出なくなった
	吃音・指しゃぶり	トイレ・風呂に一人で行けない	口数が少なくなった

電話支援対象者の相談内容(成人)

平成24年度 電話支援 実施者数 5,991人	平成25年度 電話支援 実施者数 3,913人	平成26年度 電話支援 実施者数 3,053人	平成27年度 電話支援 実施者数 2,567人	平成28年度 電話支援 実施者数 2,382人	平成29年度 電話支援 実施者数 2,202人	平成30年度 電話支援 実施者数 2,206人	令和元年度 電話支援 実施者数 1,875人	令和2年度 電話支援 実施者数 1,968人
身体面の 健康 2,761人 (46.1%)	身体面の 健康 1,913人 (48.9%)	身体面の 健康 1,279人 (41.9%)	身体面の 健康 1,145人 (44.6%)	身体面の 健康 1,090人 (45.8%)	身体面の 健康 986人 (44.8%)	身体面の 健康 961人 (43.6%)	身体面の 健康 750人 (40.0%)	身体面の 健康 866人 (44.0%)
睡眠 2,349人 (39.2%)	睡眠 1,593人 (40.7%)	睡眠 865人 (28.3%)	睡眠 798人 (31.1%)	睡眠 699人 (29.3%)	睡眠 613人 (27.8%)	睡眠 603人 (27.3%)	睡眠 467人 (24.9%)	睡眠 583人 (29.6%)
抑うつ 1,417人 (23.7%)	抑うつ 765人 (19.6%)	抑うつ 485人 (15.9%)	抑うつ 342人 (13.3%)	抑うつ 231人 (9.7%)	抑うつ 240人 (10.9%)	抑うつ 312人 (14.1%)	抑うつ 235人 (12.5%)	抑うつ 296人 (15.0%)
家族関係 1,058人 (17.7%)	住環境 751人 (19.2%)	将来への 不安 342人 (11.2%)	食習慣 236人 (9.2%)	食習慣 227人 (9.5%)	将来への 不安 226人 (10.3%)	将来への 不安 191人 (8.7%)	運動 186人 (9.9%)	食習慣 249人 (12.7%)
住環境 1,049人 (17.5%)	家族関係 726人 (18.6%)	家族関係 302人 (9.9%)	将来への 不安 235人 (9.2%)	家族関係 192人 (8.1%)	家族関係 179人 (8.1%)	運動 172人 (7.8%)	食習慣 174人 (9.3%)	運動 245人 (12.4%)

平成24・25年度の相談内容詳細(成人)

身体面の健康	糖尿病、認知症の悪化、疲れが取れない 逆流性食道炎、带状疱疹、突発性難聴 体重減少・増加、身体の痛み(胃痛、頭痛、腰痛)、高血圧 アルコール摂取量が増えた
睡眠	寝付けない、中途覚醒、悪夢 お酒がないと眠れない 眠剤を使うようになった
抑うつ	以前からの趣味が楽しめない 気持ちの浮き沈みが激しい・物や人にあたる 外出や人付き合いが億劫・身体がだるくて動かない 将来に希望が持てない・不安
家族関係	放射線を心配し、会いに来なくなった 夫婦喧嘩や家族での言い合いが増えた 帰還に関して家族間で意見が分かれている
住環境	アパート暮らしに慣れない・高齢の一人暮らしになった 家族・友人知人との交流がなくなった 避難者であることを周囲に話せない・コミュニティになじめない 帰還の見通しが立たない・賠償問題の解決が進まない

コロナ禍に関する相談 (子どもについて)

- コロナで学校が休みのため、兄弟げんかばかりしています
- 子どもたちが遊ぶところの多くが閉まっていて、外で遊ぶことができません
- 休校のあと学校が再開しても、学校に行くことをしぶっています
- 発達障害の治療のため、息子をクリニックに連れていきたいが、今も感染が怖くてそれがなかなかできないです
- 子どもたちは一日中家にいて、ずっとボーとしています。どうしたらいいのでしょうか

コロナ禍に関する相談 (成人について)

- 自分がコロナに感染したら…と考えると、過呼吸のような症状が出ます
- 仕事がみつからないです
- 家族や友人との旅行の予定が中止になってしまいました
- コロナで入院中の家族に面会できません
- 外出を控えていたけど、体重が3kgも増えてしまいました
- 感染対策について家族の中で考えの相違が生まれ、衝突の原因となっています

相談先がない人の特徴

相談先がないと回答した割合: **11.2%**



【相談先がない人の特徴】

- ◆ 40～64歳 : 1.30倍 (Ref. 16～39歳)
- ◆ 男性 : 2.46倍
- ◆ 経済状況の悪さ : 2.11倍
- ◆ 一人暮らし : 1.53倍

相談先の有無
の確認は大切

	相談先がない人	相談先がある人	P 値
全般的精神健康 K6(13点以上)	16.2%	5.6%	<0.001
問題飲酒 CAGE(2点以上)	21.5%	13.5%	<0.001

様々な支援機関との連携

市町村

福島県

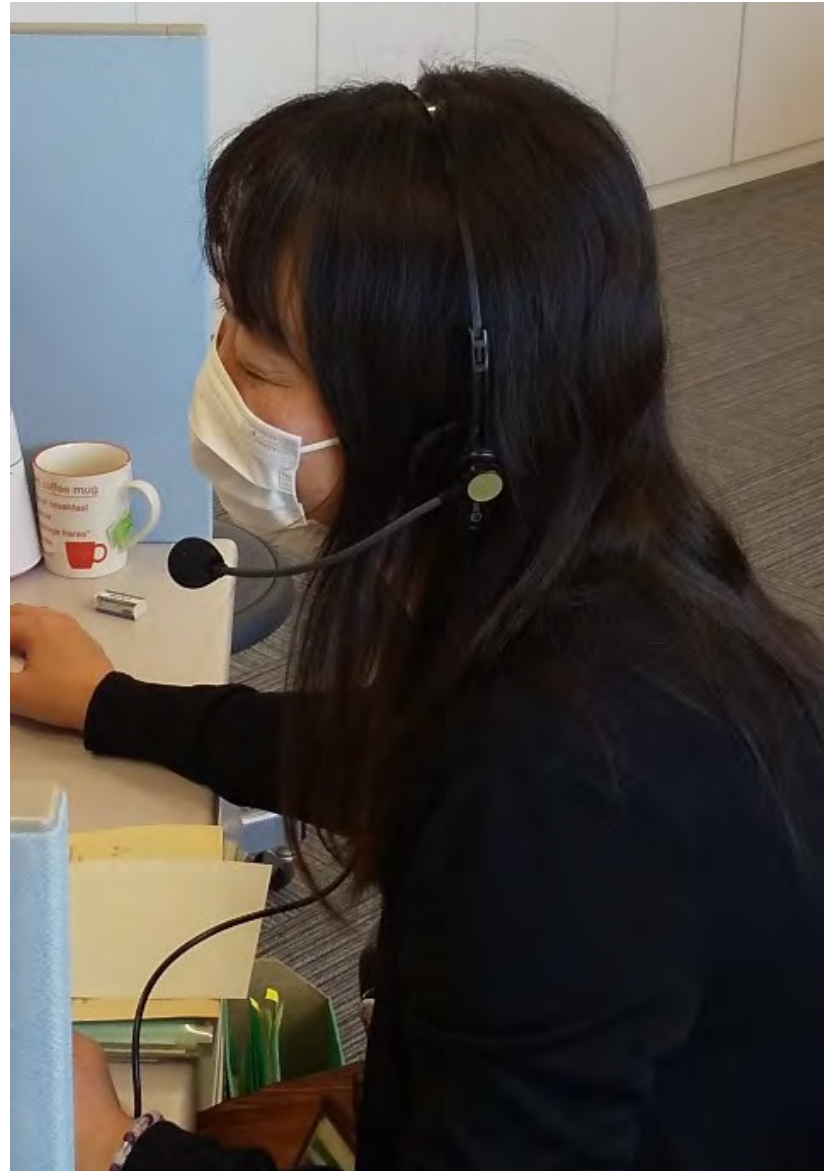
心のケアセンター

病院・診療所

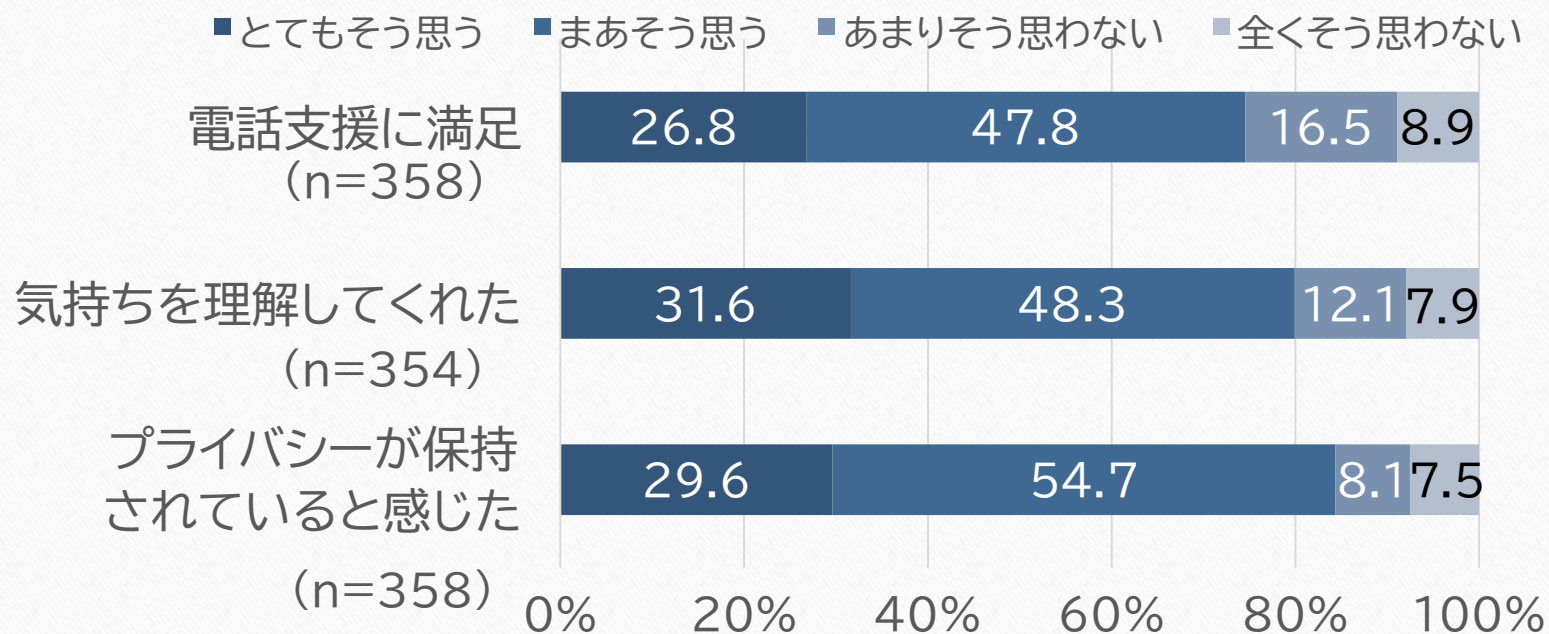
NPO・他の支援組織

アウトリーチ 型電話支援の 利点

- 自ら相談をためらう人々へのアプローチが可能である
- 地理的な問題やコストを考えずに、迅速に支援することができる



電話支援に対する評価



質問紙に最近記載された返信者の言葉

- 調査を継続的に実施し、自分たちの健康を見守って欲しい
- この調査のおかげで、気持ちを整理することができました
- このような調査は継続的に行うべきと思う
- この調査が心の健康に寄与することを期待いたします
- 日々の生活習慣やストレスについて振り返るきっかけとなり、普段は気づかない自分の健康状態や変化に気づくことができます

電話支援員のストレスとサポート

- 被災者のやり場のない怒りにさらされる機会が多い
- 支援者自身が被災者でもある場合がある
- 通常の対面支援スキルと同時に、電話支援特有のスキルも必要
- 持続可能なケアのための安定したマンパワー



- 定期的なスーパービジョン・研修会
- 上司による個別サポート
- ピア・サポート



まとめ

- ここから調査結果に基づいた様々な支援を継続して行った。特に電話支援については、年間約3,000件の架電支援を行い、現在までにのべ37,000人以上の方に電話支援を実施した。
- 面接調査の結果、電話支援に関する満足度は概して高いことがわかった。原発事故では、遠方への避難者が非常に多く、訪問など直接的な支援や介入が困難であることを考えると、この架電支援は一定の有用性があったものと考えられる。
- 住民対象の状態によっては、電話支援のみでは対応が困難であり、外部の支援機関の協力を仰ぐ必要がある。シームレスな電話支援体制のために、市町村などの関係機関とのケアネットワークを構築した。

- このスライドは、非営利かつ個人的な目的に限り閲覧することができます。

The following presentation slides are shared with symposium registrants exclusively for personal, non-commercial, educational purposes.

- このスライドの著作権は、講演の発表者本人に帰属します(図表等の引用箇所は除く)。如何なる国・地域においても、また紙媒体やインターネット・電子データなど形態に関わらず、スライドの全部または一部を無断で複製、転載、配布、送信、放送、貸与、翻訳、販売、変造、二次的著作物を作成すること等は、固く禁止します。

Copyright of these slides belongs to the presenter and/or the Radiation Medical Science Center for the Fukushima Health Management Survey, Fukushima Medical University (except figures, tables, etc., cited from other sources). Authorized recipients should refrain from reproducing, reprinting, distributing, transmitting, broadcasting, loaning, translating, selling, modifying, or creating derivatives of any slides, in any physical or electronic medium anywhere in the world.

2023年 福島県立医科大学『県民健康調査』国際シンポジウム
公立大学法人福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター
国際シンポジウム事務局(広報・国際連携室)

✉ kenkani@fmu.ac.jp Tel: 024-581-5454(平日9～17時)

2023 Fukushima Medical University International Symposium on the Fukushima Health Management Survey

Secretariat of International Symposium

Office of Public Communications and International Cooperation, Radiation Medical Science Center for the Fukushima Health Management Survey, Fukushima Medical University

✉ kenkani@fmu.ac.jp, TEL: +81-24-581-5454 (Weekday, 9a.m. - 5 p.m. JST)